

## ディスプレイ産業特別賞 (日本経済新聞社賞)

〔文化・公共施設〕

# 東日本大震災津波伝承館 (愛称:いわて TSUNAMI メモリアル)

クライアント 岩手県  
プロダクション 株式会社乃村工藝社  
内藤廣建築設計事務所  
株式会社ブレック研究所  
写真提供 株式会社高田松原

東北三陸地域は、自然災害の危険性が高い地であり、この地に生きる人々は、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。しかし2011年3月11日におこった東日本大震災津波により、多くの尊い命を失いました。この悲劇を繰り返さないために、震災津波の事実と教訓を後世に伝承し、復興の姿を国内外の人々に発信する施設として、高田松原津波復興祈念公園内に2019年9月に開館しました。

展示のテーマは「命を守り、海と大地と共に生きる」。東日本大震災津波に係る様々な事実と、震災津波から見えてくる教訓を展示化し、この地で起こったこと、被害の大きさ、そして復興への努力を来訪者の心に残すことを重視しました。

又、本施設は、奇跡の一本松が残る津波復興祈念公園内に位置し、海に向かう「祈りの軸」と防潮堤に平行に伸びる「復興の軸」が交差する箇所に着地しています。「復興の軸」には、施設の展示空間、道の駅等が並び、被災時から今までの足取り、未来を展望することができます。一方「祈りの軸」上には、式典広場、献花の場、海を望む場が連続して構成され、この地を訪れた来訪者一人ひとりに対し自然への畏怖と恩恵に思いを巡らす場となっています。

株式会社乃村工藝社 正木秀司

### 審査評

岩手県には「てんでんこ」という方言がある。「それぞれに」「各自で」という意味だそう。三陸沿岸には昔から「津波のときはてんでんこ」という教えがあり、それは「津波が来たらそれぞれで逃げなさい」ということらしい。その言葉には「逃げ切つて必ず生き残れ」という先人たちの教訓と強い思いが込められている。「いわて TSUNAMI メモリアル」はまさに「てんでんこ」の大切さを世界の人たちに伝えるための施設といってもいい。

導入部では津波災害の歴史、メカニズムをわかりやすく解説。3.11の事実を知るコーナーでは直角に曲がった橋桁、押しつぶされた消防車などの実物が展示され、津波の圧力に息をのむ。複数の画面を組み合わせた大スクリーンには、地震発生時からの流れを追ったリアルタイムの実写映像が映し出され、巨大津波の脅威に凍り付く。

開館して1年、22万人の来館者があったという。震災からもうすぐ10年。人の記憶は次第に薄れていく。しかしこの施設を訪れた人たちは、あらためて自然災害の恐ろしさ、命を守るための英知、それを乗り越えていく力を痛いほど感じ取ったことだろう。

“奇跡の一本松”が残った津波の浸水区域に作られた復興祈念公園の中心的存在。高さ12.5mの防潮堤の上に立ち、海を背にこの建物を眺めると、背景の青い空と緑の山をまったく邪魔することなく景観に溶け込み、見事に自然と一体化しながらも、その存在は光を放つ。世界に「てんでんこ」を伝える、まさに追悼と鎮魂のシンボルである。

審査員 日本経済新聞社 迫 宏治



写真提供：株式会社 高田松原

東日本大震災津波伝承館  
いわて TSUNAMI メモリアル